

放射脳をあざ笑うネタ

yota

放射能って？

いわゆるゴジラが産まれた放射能のイメージしかないのが世界的標準である。原爆が投下されたヒロシマとナガサキがあるが、それがフクシマとどのような違いがあるのかを理解している人は、世界人口との比率からするとゼロに限りない数値になるだろう。なんで、こんなことになってしまったのだろうか。

アトミックボムと原子力エネルギーの違いをわからずに扇動された人たちをあざ笑うような、そんな文書にしていきたいと思う所存。

あんまり詳細には言えないことではあるのだが、日本は原子力エネルギーの有効活用については第一人者である。これは、原子力を兵器として開発した国が多いことに対して、純粋にエネルギーとして開発しようとした国が日本しかなかったことによるものだ。

原子力発電所黎明期には、危険予知の観点ではデータ不足な設備が少なくない。フクシマはそれが現実として対応策ができていなかったことを全世界に露呈してしまった事例である。浜松もそれに限りなく近い施設であった。カンチョクトの唯一の功績として、浜松を停止したことは個人的に認めざるを得ないところである。

さて、放射性物質についての研究は、現在では東海村でしか行われていなかったかのような認識がされている。しかしながら、昭和時代は全国的にそれを研究する施設はあった。東京都内にも存在していた。今では関係者以外は知らないことだし、当時の当事者のほとんどは定年退職している。そんな時代のことである。

東京電力をはじめとする各地域発電会社による依頼により、原子力を発電に用いる研究が行われてきた。原子力村と一時期は揶揄されていたが、重電関連製造業は全て関わっていたという認識でよいだろう。重電というのが何を意図するかがわからない人も多いただろうが、それは己の勉強不足とあっていただきたい。それくらいに深く黒い歴史が存在するのだ。

現東海村は、今の所有者が昔から所有していたわけではない。電力会社が云うところの協力業者が電力会社から買わされた土地であり、それなりの技術を所有すると認定された会社はその土地を購入して現在に至っている。元国有企業と国幹企業の蜜月は、基礎知識のない人に説明しても決して理解いただけないようなつながりがある。想像の域であるが、その裏には国家間の表にできないような交渉もあっただろうと確信している。

まあもっと判り難くするために加筆すると、ヒトゴロシを研究している国がイルカを殺している人を非難するとか片腹痛いとか思ったりするわけだ。